

## 第 21 回独立行政法人農林漁業信用基金漁業災害補償関係業務運営委員会 議事概要

### 1 日時及び場所

- (1) 日時 令和 8 年 2 月 19 日(木) 10 時 25 分 ～ 11 時 40 分
- (2) 場所 東京都港区愛宕 2-5-1 愛宕グリーンヒルズ MORI タワー 28 階  
独立行政法人 農林漁業信用基金 大会議室

### 2 出席者

- (1) 運営委員 (出資者・学識経験者別 五十音順)  
出 資 者 : 岩下委員、佐野委員、中嶋委員、畠山委員  
学識経験者 : 浦川委員、菅野委員、平野委員、宮本委員、山本委員
- (2) 信用基金  
牧元理事長、平岡総括理事、山崎理事、鹿田理事
- (3) オブザーバー (主務省)  
水産庁漁政部 御厩敷漁業保険管理官、山本管理官補佐

### 3 提出議案

- (1) 審議事項
  - ① 業務方法書の変更 (案) について
  - ② 令和 8 年度年度計画 (案) について
- (2) 報告事項  
全国漁業共済組合連合会に対する貸付けの状況及び今後の見通しについて
- (3) 情報提供事項  
委員からの情報提供
- (4) その他

### 4 議事経過の概要及びその結果

山本委員が互選により委員長に選任、委員長代理に岩下委員が指名された。  
審議事項である 3 (1) の議案について信用基金から説明がなされた後、審議が行われ、  
原案どおり承認された。

報告事項である 3 (2) について信用基金から報告を行った。

情報提供事項である 3 (3) について委員から情報提供がなされた。

運営委員からの主な発言等は以下のとおり。

#### 【発言等】

- (1) 審議事項  
〈 質疑なし 〉
- (2) 報告事項
  - 地球温暖化の影響等もあり、サケやカキで大きな支払いが発生。共済金の不足分について、基金から借入れし、漁業者に滞りなくお支払いさせていただいている。御礼

申し上げる。

### (3) 情報提供事項

- 魚類養殖は、今夏大きな赤潮被害が無かった。一方、カキ養殖は瀬戸内海が非常に被害を受けているが、かきの特定養殖共済は、未加入のところがまだある。国で政策パッケージが策定されたので、各種の団体と協力して広めたい。ノリ養殖は、去年は豊作だったが今期は色落ちが進み、数量も金額も非常に厳しい。各関係機関と協力し、早期に共済金をお届けしたい。
- サケ定置の不漁により漁獲共済の加入が減っている一方、サケマス養殖について、契約実績が前年度比約 113%で、金額は約 28 億円の増が見込まれるので、漁獲共済の代わりにこちらを頑張りたい。共済金の支払額は、サケ定置の不漁、アワビの価格安、ホタテの斃死などで高止まりしている。
- 合同共済組合において、1 月末時点の共済引受額は前年度比 30 億円の減。養殖尾数の削減が主な要因。大型まき網漁業のサバやイワシの不漁により、支払額は増加している。不漁は継続中で、来年度の支払いも見込まれる。また、能登半島の震災による支払いはほぼ終了した。ほか、瀬戸内海のカキ養殖の被害やノリ養殖の色落ちなどにより大きな支払発生の見込み。
- 魚種によるが、豊漁か不漁か地域的な差がある。魚価も上がっているものと下がっているものがある。マグロについては、漁獲も養殖も価格が低いが、ノリは不作により単価がこれまでになく高く全国的に異常な価格形成。青森においては、陸奥湾でホタテが獲れない。各地域の事情で格差はあるが、不漁や価格安を背景に、今年度の共済加入実績は過去最高を見込んでいる。
- 北海道の主要 3 魚種（ホタテ、秋サケ、コンブ）のうち、特に秋サケが数量、金額とも壊滅的で定置網は厳しい状況。マグロの入網による定置網の破断も多く、修繕費に経営者は頭を抱えている。刺し網については、シャチの被害が非常に大きい。トドの被害や資材・燃油価格の高騰もあり漁業者の首を絞めている。ぎょさいは経営を維持する大事な第一の防波堤。維持するとともに、補償の後退が無いようお願いしたい。
- 業況判断 DI はマイナス 2.4%ポイントと小幅ながら 3 四半期連続の改善だが、1～3 月期の予測値はマイナス 7.9%ポイントで 5.5%ポイントの悪化を見通しており、先行きには自信が持てない状態が続く。2025 年 9 月期の信用金庫全体の当期純利益は約 2,000 億円で前年比小幅の増益。金利ある世界の中、資金運用益が増加したことが主因だが、メガバンクや大手地銀と比べると増益幅は緩やかで、国債や外債等の含み損、実現損が拡大している状況。
- 魚類養殖について、ブリ類は輸出が多く、放養尾数が少なかったため良い価格帯だ

が、マグロ、フグ、マダイは安価で安定している。餌料メーカーが今後値上げを考えていると聞き、現場サイドは、利益が出なくなることを危惧している。漁業は、漁獲が少なく魚価が上昇しているが、温暖化の影響もあり、獲れない魚種が増加しており、漁業転換等が必要ではないか。赤潮や台風大型化等の問題がある中、ぎよさいは我々漁業者にとって命綱。

- 沖合底びき網漁業について、愛媛ではイカ類が主力。漁獲は少ないが、他地区の不漁により価格が安定している。約 50 種を色々な漁場で水揚げするため、比較的安定している漁法とはいえ、資源量の影響はかなり受ける。山口では、アンコウの水揚げが日本一だったが、今年は不漁でカレイ類に主力を移している。漁船漁業も経費が高騰し、経営を安定させ利益を上げていくのが難しくなっている。漁業共済等で少しでも経営の安定化を図り、継続できるよう考えるのが役割だと感じる。

以上